



曙地区では5月1日(土)、地域で大切に受け継がれている「牛のぼり」が、2年ぶりに大空を舞いました。集まった子ども達10人と同じ数の牛のぼりを厳選し、一斉に上げました。主催した曙地区子育て連絡協議会田頭 英智会長は「暗い気持ちがあつても和らいでくれば、地域の子ども達には、強くたくましく育てほしい。」とメッセージを送りました。

## 牛のぼり、思いのせて泳ぐ



## 市の施設が一斉にオープン!

4月29日(木)、市の施設が春のオープンを迎えました。ノシャップ寒流水族館では、冬の間に特訓したアザラシたちがオリンピックにちなんだ技を披露し、観客からの拍手喝采!初めて訪れたという松尾 百合ちゃんのご家族は、アザラシのえさやり体験をして「楽しかった!」と笑顔でした。動物ふれあいランドは、春の日差しの中、ウサギを優しくなでたり、ヤギにえさをあげる家族連れで賑わいました。  
※新型コロナウイルス感染対策のため、施設を休館する場合があります。



富磯小学校で4月22日(木)、毎年恒例のサケの稚魚の放流式が行われました。この稚魚は、昨年12月に学校にやってきた卵を孵化させ、全校児童12人が交代で大切に育ててきたものです。児童たちは、元気に育って帰ってくるよう思いを込めて、広い世界へ飛び出していく稚魚を見送っていました。

## 大きくなって、帰ってきてね



## 稚内北星学園大学 公開講座のご案内

稚内北星学園大学では、市民の皆さんを対象とした公開講座を開講します。ぜひご参加ください。  
問い合わせ/稚内北星学園大学 ☎32-7511

### 申込方法

- ①ホームページ  
<https://www.wakhok.ac.jp/koukaikouza>  
申し込みフォームから入力ください。
- ②電話  
住所、氏名、年齢、電話番号、メールアドレス、希望講座名をお知らせください。
- ◎講座開講の3日前までに申し込みください。当日の飛び入り参加はできません。
- ◎中止・延期の場合は、申し込みいただいた方に直接ご連絡します。

講座名	講師	日時	場所
“おうち時間”をボードゲームで頭の体操 (対象 小学生以上の児童・生徒とその保護者)	佐藤 元彦 小泉 真也	6月19日(土) 第一部14:00~15:00 第二部15:00~16:00	本館1階 わくほくメディアラボ
“やわらかアタマ”と水平思考 ~おきらく生涯学習のススメ②~	小林 伸行	6月24日(木) 19:00~20:00	本館3階 302教室
15パズルの数学	陶山 大輔	6月25日(金) 19:00~20:00	本館3階 301教室
北海道稚内から世界へ~カーリングと 総合型地域スポーツクラブの可能性~	侘美 俊輔	6月30日(水) 19:00~20:00	本館3階 302教室
大学図書館の利活用 ~国立国会図書館デジタルコレクション編	図書館職員 由利 真代	7月2日(金) 19:00~20:00	本館2階 図書館
プログラミングを始めてみよう (対象 高校生以上)	佐賀 孝博	7月8日(木) 19:00~20:30	新館2階 1201教室(演習室)
稚内市津波ハザードマップを活用した 避難経路の検討(1)研究紹介編	遠藤 孝夫	7月9日(金) 19:00~20:00	本館3階 310教室
古代岩画に魅せられて~ロシア極東アムール川 流域ナナイ民族の文化と暮らし~	井出 晃憲	7月16日(金) 19:00~20:00	本館3階 301教室

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

### 世界を変えるための17の目標

### Step 8

持続可能な社会を目指した取り組み[SDGs]について、17の目標をシリーズで紹介します。



### 13 「気候変動に具体的な対策を」

気候変動は、地球で暮らす私たちの生活に大きな影響を及ぼします。地球の平均気温は上昇を続けていますが、急激な気候変動は、あらゆる生態系に影響を与え、大きな自然災害や食料不足、水不足など、様々な問題を同時に引き起こす恐れがあります。主な原因とされている、温室効果ガス排出量の削減など、全ての国と企業の気候変動に対する取り組みと、私たち一人ひとりの、環境問題へ対する取り組みが、より重要となっています。



気候変動は世界的にも問題視されており、先進国や開発途上国といった枠組みを超え、全世界が取り組むべき喫緊の課題です。



### 14 「海の豊かさを守ろう」

私たちは海から、食料をはじめ、多種多様な海洋資源を得て生活していますが、資源の乱獲やプラスチックごみを主とする海洋ゴミの増加は、海の生態系を脅かす大きな問題となっています。海洋資源の保全と持続可能な利用のため、適切な漁獲枠の設定や、プラスチックごみへの対策など、一つの国だけではなく、世界中の国が足並みを揃えて取り組むことが求められています。



世界の海では毎年約800万トンのプラスチックごみが流出しており、このまま対策をしなければ、魚の量をプラスチックごみが上回ると言われていています。海に面する国だけではなく、全ての国が共に海を守る取り組みをする必要があります。